



ほ 多 富

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】 “感動” が人を動かす

堀 貞一郎 著 竹井出版

ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2019年9月1日 Vol. 203

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

ライフコンサルタント 渡邊 敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地

TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

『GDP』は豊かさの指標？

私たちがよく耳にする「GDP」という言葉。これは“豊かさ”の指標とされてきました。しかし、日本は2012年12月から景気拡大期に入っているにもかかわらず“豊かさ”を感じる事ができません。私たちの収入である賃金は、「実質賃金」と「名目賃金」（現金給与額）という2つの指標があります。

これまで「実質賃金」という指標は、「名目賃金」の陰に隠れてほとんど注目されることがありませんでした。“豊かさ”の指標である「GDP」は国民生活の実感からかけ離れた指標になりつつあります。「実質賃金」を重要な経済指標の1つとしてみる必要があります。

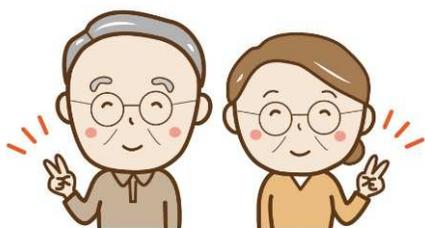
2013年にアベノミクスが始まりましたが、2013年～2015年の実質賃金の下落幅は累計して4.2ポイント（下落率では4.6%）までになり、この下落幅は2007年～2009年の「2008年のリーマンショックをはさんだ3年間」の5.2ポイント（下落率では5.4%）に迫っていました。2013年以降の5年間の実質賃金の推移を振り返ってみると、2013年は0.8ポイント減、2014年は2.6ポイント減、2015年は0.9ポイント減と3年連続で減少を続けた後、2016年には0.6ポイントの増加に転じたものの、2017年には再び0.2ポイントの減少へと逆戻りしてしまいました。

近年、大企業の景況感と国民の生活実感のあいだには大きな乖離があると言われてます。2018年の半ばまでは多くの経営者が口をそろえて「とても景気がいい」という見解を話していました。

新聞メディアの世論調査では、景気回復を「実感している」と答えた人が2割前後、「実感していない」と答えた人が8割前後という結果が出ています。

これからの日本は、今まで経験したことのない少子高齢化がもたらす大きな難題が待っています。そんな中「普通の人々の景気認識は政府の見解よりも国民の実感の方が正しい」と受け止めて、“国民が実感できる景気回復とは何なのか”を謙虚に考えて欲しいものだと思います。

人生100年時代を迎える中で、私たちが“笑顔”で生き生きと暮らせる社会を実感したいものです。



チャンス

アメリカの雑誌フォーブスの世界長者番付で、ビル・ゲイツは1994年～2006年まで13年連続の世界一となった。2006年の個人資産は推定530億ドル（日本円で約6兆2000億円）で、2007年の資産はさらに50億ドルまでに膨らみ資産総額は580億ドルにもなりました。

大成功を手に入れたビル・ゲイツですが、彼にも大きな転機がありました。彼が大学生のとき、アルテア8080という当時最新のコンピューターが出ることを知り、実際には未だ何も作成していないオペレーティングシステム（OS）を「現在開発中で間もなく完成するので御社に伺ってお見せしましょうか」と鎌をかけました。

その8週間後、不眠不休でオペレーティングシステム（OS）を完成させました。そのデモのためニューメキシコへ移動中、一部システムの開発を忘れていたことに気づきその飛行機の中で完成させ、テストもせずに本番に臨んだという逸話が残っています。

その後、19歳でマイクロソフト社を立ち上げた彼ですが、実は儉約家としても知られています。仕事のため世界中を飛び回っていますが、一般旅客機に乗る時には極力エコノミークラスだそうです。来日した時、日本法人のスタッフからファーストクラスの航空券を渡されると「日本のマイクロソフトはこんな無駄遣いをする会社なのか!」と激怒したそうです。ファーストクラスでもエコノミークラスでも到着する時間は同じなのだから」とマスコミの取材に答えたそうです。チャンスを活かす人はどこか違いますね。



【座右の銘にしたい名言】



満足は努力の中であって、結果にあるものではない。

（ガンジー/インドの弁護士、宗教家、政治指導者）